



目次

2012年度地域研究センター事業・研究報告 1～2
 地域文化教育学会第2回全国大会開催 2～3
 佐井村・西目屋村・七戸町 学生調査活動について 3
 2012年度 公開講座報告 3～4
 まちなかラボの紹介 4

2012年度地域研究センター事業・研究報告

本学地域研究センターでは、8つの事業・研究が今年度行われています。その中から、今回は2つの研究報告をご紹介します。

地域政策イノベーション創発の公共リーダーシップ研究

地域政策イノベーションとは、地域に生活する人々のために、コミュニティを再建し、自治を拡充し、ソーシャル・キャピタル（信頼）を獲得しつつ地域課題の解決に向かう革新的プロセスであると定義します。本研究プロジェクトでは、そのような地域政策におけるイノベティブな取り組みを進めていくリーダーシップの精神性と組織戦略に焦点を当てています。

本プロジェクトにおいては、諸外国及び日本の各地で行われている地域政策イノベーションの優れた事例に焦点を合わせ、量的質的研究を行いました。その中の一つが、岩手県釜石市と東京の非営利株式会社プラットフォームにおける震災復興ビジネスモデルの創出と実践です。

釜石市のケースでは、津波に流され、どん底を経験した人々の再建への決意、そしてボランティアの志、その強い意思に応じて事業支援を行う事業者や自治体職員が奮闘しています。とりわけ重要と考えられたのが、志であり、精神性の所在です。その志を繋ぎ、キッチンカープロジェクトによる復興及びビジネス展開というビジネスモデルが提供されました。

この過程では、精神性が重要であったと考えられます。ビジネスモデルとその普及、起業精神は、行動理念（哲学）に裏付けられたものです。この点について、ホワイトヘッド、バーナード等の学者の理論をベースにしつつ、サーバントリーダーシップ（奉仕型のリーダーシップ）の考え方を参考に、キーとなる人物の行動基準を開発し、さらに質的調査を行いました。

（次ページに続く）



インド、ハイデラバードにおけるICPA国際研究学会での研究報告。



釜石、キッチンカープロジェクト。

その結果は、地域政策イノベーションのDNAともいうべき、精神性が共有されており、リーダーは、そうした精神文化を継承、組織の中に埋め込むべく傾注していると考えられるというものでした。

また、そのような組織文化の醸成されていない過度の官僚主義的な別地域の公共組織では、イノベーターは、その組織を出て独自のネットワークを駆使し、地域政策イノベーションを展開していました。そこでは、自主研究やオープンな対話が重要な役割を果たしていたことが明らかになりました。

本研究のエッセンスは、インドのハイデラバードで行われたICPA国際研究学会において報告しており、今後日米、アジアの研究同僚とともにさらに国際比較研究を深化させていく予定です。調査にご協力いただいた多くの方々に、この場をお借りし、深く感謝申し上げます。(研究員・教授 遠藤 哲哉)

自治体の経営会計システムの研究

—自治体の経営システムと会計システムの融合による『自治体経営会計システム』の構築—

本研究プロジェクトの研究テーマは、「自治体の経営会計システムの研究—自治体の経営システムと会計システムの融合による『自治体経営会計システム』の構築—」の研究です。

わが国の「自治体行政システム」は、明治以来、中央集権的な自治体行政システムとして運営されてきました。しかし、2000年4月1日に「地方分権一括法」の施行以後、地域の特性や個性、個々の住民などの自治体の属性・主体性を重視した「自治体経営システム」へと移行することになりました。

「自治体行政」から「自治体経営」への移行に伴い、経営と会計の相互補完関係から、自治体経営のための「経営会計システム」の構築と導入が不可欠です。財務会計システムは、2010年の「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」の施行による「財政健全化判断比率」の公表に伴い導入されました。しかし、自治体の経営活動の結果のみを写像する財務会計システムのみでは、自治体経営は不可能です。自治体経営に必要な経営意思決定や業績評価のための「管理会計システム」の導入が不可欠です。

本研究プロジェクトは、自治体経営のための財務会計システムと管理会計システムの融合・統合された「自治体経営会計システム」の構築と導入について、研究を行うものです。2012年度は、自治体の「財務会計システム」と「管理会計システム」の実態調査と解決すべき課題の洗い出しを行いました。2013年度は、実態調査を踏まえて、自治体の財務会計システムと管理会計システムの融合・統合された「自治体経営会計システム」の構築と提言を予定しています。(研究員・教授 藤永 弘)

地域文化教育学会第2回全国大会開催

2012年10月20日(土)、青森公立大学にて地域文化教育学会第2回全国大会が開催されました。地域文化教育学会(略称AREC)は青森公立大学に事務局を置き、地域研究、地域文化、異文化研究、教育分野および関連分野を含む研究・教育・実践における相互啓発および親睦をはかることを目的としています。

学会会長である本学学長・地域研究センター長 香取薫教授による基調講演「地域におけるICT利活用」の後、地域経営分野、産業分野、異文化・教育分野等、学際的な分野にわたり、研究発表および事例報告等が行われました。発表後、多くの参加者から質問やコメントが寄せられ、活発な意見の交流が行われました。

同時に、学会機関誌『地域文化教育学会論叢』(英語名AREC Journal)第1号が発刊されました。地域研究、地域産業、言語・教育、地域文化等に関する興味深い論文、報告、寄稿が掲載されています。



開会の辞を述べるAREC会長、本学学長・地域研究センター長 香取薫教授。



発表風景。各発表に対して質疑応答等、積極的な意見交流が行われました。

今回の大会では学生・一般の他、諸外国からの入会申し込みもあり、徐々に会員数が増えています。地域文化教育学会は、今後も、その活動を通じて地域の活性化に貢献することが期待されています。

佐井村・西目屋村・七戸町 学生調査活動について

本学と地域連携協定を結んでいる佐井村・七戸町・西目屋村に関して、学生による調査活動が平成24年10月から11月にかけて行われました。

【佐井村】

佐井村では、佐井村役場と高齢者生活福祉センターの協力の下、10月17日に“サイボード”の利用状況調査を行いました。サイボードは村内各世帯の情報格差の軽減を目的に導入されている、ニュース・警報やお知らせ・行政との連絡・メールの機能を持つタッチパネル式端末です。

今回は1人暮らしの高齢者の安否確認ができる「見守りサービス」機能によって、サイボードの導入前と導入後でどのように生活の質が変化したかの調査を中心に、村内各地区の代表宅に訪問アンケートを行いました。日常生活の一部として受け入れられている等、多くの前向きな回答が得られました。

【西目屋村】

西目屋村には11月23日（金）・24日（土）にかけて、本学学生グループが調査に赴きました。調査は、西目屋村の地域資源や観光資源の掘り起しと、活用の方策についてを考察する目的で行われました。西目屋村では現在“津軽ダム”の建設が進んでおり、建設後のダムの観光資源化を含め、世界遺産である“白神山”に代表される観光資源と周辺地域の魅力掘り起しが肝要となっています。

長い冬の到来を感じられるような小雪が混じる天気の中、地元の人しか知らない史跡や風景を周るとともに、地元産品による商品開発の現場も訪ね、西目屋村の新たな魅力づくりを思案していました。

【七戸町】

七戸町では、平成24年10月27日（土）・28日（日）にかけて実施された『七戸そば博覧会』へのお手伝いと、会場でのアンケート調査を行いました。このそば博覧会は、本学学生が町に提言して実現をしたもので、今回で3回目となりました。

会場である七戸体育館には地元七戸町のみならず、むつ市や東北町、十和田市等から13のそば店舗が出店し、家族連れをはじめ多くの人でにぎわいました。学生達は町役場に協力して会場の整理なども担い、忙しそうにアンケート調査に取り組んでいました。学生発信によって地域に定着しつつあるイベントを通し、地域の活性化について実感を深めていました。

2012年度 公開講座報告

地域研究センター公開講座は、昨年度の3講座から今年度は7講座に拡充し、開講しました。秋冬開催の講座では延べ471人、夏開催人数分も含め全体で延べ合計648人が参加し、皆様から好評を頂きました。次年度も公開講座を開催する予定でありますので、どうぞご期待下さい。



「組織は、倫理的でありうるのか？」（講師：藤沼司准教授）
講座の後、参加者と講師の間で活発な質疑応答が行われました。



「さわやかな生き方2」（講師：羽矢辰夫教授）
本講座にて瞑想の時間が設けられ、参加者から好評を頂きました。

◆青森の未来をデザインする —本州の最北端の地「青森」からの発信—

世界・アジア・日本・東北・青森の在り方を考えた上で、新しい時代の青森の未来をデザインし、新しい青森の創造、進化、活性化の方向を提言することをテーマに、経営学・会計学・経済学・情報学の視点で全6回行われました。

延べ131人の方々が受講し、10代から20代の学生が最も多く約半数、続いて60代～70代が3割を占めていました。様々な専門分野の視点で展開される講座内容に、受講生の皆様から多くの共感と好評を頂きました。

(受講者のご意見・ご感想)

- ・日本の将来の問題を解決するには現代の教育にもっと力を入れるべきだと改めて感じました (10代：男性)
- ・考え方一つでいろいろな方向性があると感じた。まだまだ青森から“発信”することができると思った (20代：男性)
- ・分かり易く、考えさせられる講座であった。日頃感じている問題点について基本的なところでの説明がよかった (50代：男性)

◆一組織は、今。そして、組織論は・・・。

組織のありようによって私達の生活の善し悪しを左右する組織論を学び、私達の生活および地域を考えることをテーマに、全5回行われました。

延べ87人の方々が受講し、70代の方が最も多く約半数、続いて40代から50代が4割を占めており、職場環境と照らし合わせて共感された意見が多数寄せられました。また、同分野に興味を持つ学生の受講生からも将来を見据えた感想が寄せられました。

(受講者のご意見・ご感想)

- ・組織学習の失敗という項目から沢山学べました。また、小説の一部を参考に説明していて分かり易かったです(10代：男性)
- ・内容もわかりやすく、とても勉強になりました。特に「知識創造の動態モデル」について実践してみたいと感じました (30代：男性)
- ・とても専門知識が得られました。大変素晴らしい流れで芸術理論となったように思います (60代：女性)

◆人間の探求Ⅱ —心理学と仏教から—

前半は記憶や死に関する心理学研究の成果を紹介しながら人間の心の不思議さを、後半はブッダや親鸞の教えを学び仏教の思想から人生について問い直すことをテーマに、全4回行われました。

延べ82人の方々が受講し、40代から70代の受講生が大半で、その中でも半数が60代の方々でした。それぞれ個性的な講座内容に、受講生の皆様からの質疑応答も活発に行われました。

(受講者のご意見・ご感想)

- ・学生時代の心理学授業はつまらなかったのですが、初めて心理学の楽しさを覚えました。このようなテーマに向き合う時間がないので、とても有意義な時間を持ってました(60代：女性)
- ・非常におもしろく聴かせて頂きました。お話のテンポが良く、お寺の説法に似た部分がありましたが「妙好人」さんの存在を初めて知り興味が湧きました (40代：女性)

◆新時代の起業力を養う —社会の起業家・企業内の起業家育成を目指して—

新しい社会が求めているあらゆる分野・組織の人々の起業力と起業家の育成を目指すことをテーマに、学術研究者と専門職業人に各々の専門の立場で、全7回行われました。

延べ111人の方々が受講し、40代の受講生が最も多く3分の1、続いて20代と30代、次に50代と60代でそれぞれ3分の1ずつ占め、世代を問わず当テーマに対する関心の高さが伺えました。

(受講者のご意見・ご感想)

- ・ビジネスを始めるにあたって何から始めていけばよいか、基本から学ぶことができた (20代：男性)
- ・とても好感の持てる講師で、テーマ内容についてとても分かり易くバランス良く学べたと思います (30代：女性)
- ・明快でとてもおもしろかった。無料でこんなに楽しい話が聞けるなんてすごいです (40代：女性)

◆外国語会話講座 (観光英語・ビジネス英語・観光中国語)

前回、観光英語(3クラス)・ビジネス英語(1クラス)の合計4クラスで開講されていましたが、今回は3クラスを拡充し、観光英語(3クラス)・ビジネス英語(3クラス)・観光中国語講座(1クラス)の7クラスとなりました。

これまでと同様、定員を超える受講申込がありました。各講座とも受講者の意識・意欲は非常に高く、熱心に、また積極的に参加していました。

(受講者のご意見・ご感想)

- ・自分には少しレベルが高いと思ったが、できたら次回この講座を受講させて頂きたいと思います。
- ・ステップ・バイ・ステップで教えて頂けるので助かりました。次回もぜひ受講させて頂きたいと思います。
- ・とても良い講義でした。内容も良かったし、無料だったのがよかった。今度あったらまた受講したいと思います。

多目的サテライト 青森公立大学まちなかラボ



まちなかラボは、本学の地域研究センター研究員が交代勤務しております。本学の教職員、学生とともに、地域社会に関する研究、各種プロジェクトを行う際のディスカッションの場、地域振興、産学官連携に関する相談窓口としてご利用下さい。

〒030-0801 青森市新町1-3-7 青森駅前再開発ビル(アウガ)6階
 電話：017-718-7025 Fax：017-776-2082
 E-mail：lab@bb.nebuta.ac.jp
http://www.nebuta.ac.jp/machinaka_lab/index.html
 開設時間 13：00～21：00

(毎週日曜日、年末年始、アウガ全館休館日、5～8階公共施設休館日は、休業いたします。)